



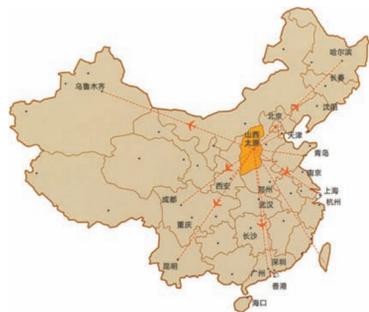
新デステイネーション 山西省



菩薩頂から眺める五台山・台懷鎮地区の風景

◇山西省の概要
 面積 約15.63万平方キロメートル
 省都 太原市
 人口 3,571万2,111人
 地域の概要 黄河の中流域、黄土高原の東に位置し、太行山の西にあることから山西省と呼ばれる。春秋戦国時代に晋の領地に属したため、別称が晋となっている

中国国家観光局と中国国際航空主催の中国・山西省研修視察旅行が10月17日から22日までの6日間行われた。日本の旅行会社で中国ツアーを担う社員の対象とした研修旅行で、本紙記者も全行程に同行。三つの世界遺産をはじめ、省内を代表する観光地を視察。同省の魅力の一端にふれた。主な訪問先を先週に引き続き紹介する。



現地レポート (part.2)

三つの世界遺産、悠久の歴史刻む晋の国



雲崗石窟の第20番窟、高さ13.75mの仏像

雲崗石窟

雲崗(うんこう)石窟は山西省にある世界文化遺産の一つで、2001年に登録された。山西省第2の都市、大同市の中心から西に16kmの郊外にある。武周山の南側、東西約1kmにわたり掘られた石窟群。敦煌石窟(新疆ウイグル自治区)、龍門石窟(河南省)とともに、中国3大石窟に数えられる。



蜂の巣のように掘られた石窟

3大石窟の一つ 5万体制す仏像



建造物で保護されている石窟もある

一般公開される第1〜20番窟の中で、最も早い時期に掘削されたのが第16、20番窟。北魏の和平年間(460〜465年)に、当時の僧、曇曜和尚により彫られたといわれる。洞窟の外に姿を見せる第20番窟の仏像は高さ13.75m。北魏の皇帝をモデルとした巨大な如来像で、雲崗石窟のシンボルとしてパンフレットなどにもよく登場している。洞窟の中は貴重な文化財を保護するために撮影が認められていないが、例外的に撮影できる仏像だ。

大同市の中心に位置する、遼金時代(907〜1206年)からの華嚴寺の重要な寺院で、大同市仏教協会の所在地。元の時代にほとんどを焼失したが、明時代に再建。上華嚴寺、下華嚴寺の二つに分かれたが、2010年に一つの寺に再建された。

華嚴寺

中国で最も広い仏殿



華嚴寺の大雄宝殿

◇山西省のその他の見どころ
 大同市中心部の九龍壁は中国の目隠し壁の逸品。朔州市応県の大木塔は高さ67.13mと、世界で現存する最長、最古の木造の樓閣式塔。臨汾市吉県の壺口瀑布は黄河の黄色い水が流れ落ちる中国で2番目に規模の大きい滝。太原市中心部には中国一の産出量を誇る山西省の石炭の博物館がある。

行程表(モデルコース)

日	行程
1日目	日本各地→(飛行機)北京 北京→(飛行機1時間)太原 太原ホテル泊
2日目	太原→(車1.5時間)交城(玄中寺) 交城→(車1.5時間)太原(晋祠) 太原ホテル泊
3日目	太原→(車1時間)祁県(喬家大院) 祁県→(車1時間)平遥(平遥古城) 平遥ホテル泊
4日目	平遥→(車4時間)五台山(菩薩頂、顯通寺、塔院寺) 五台山ホテル泊
5日目	五台山→(車2.5時間)渾源(懸空寺) 渾源→(車1.5時間)大同(雲崗石窟、華嚴寺) 大同ホテル泊
6日目	大同→(飛行機1時間)北京 北京→(飛行機)日本各地

五台山

五台山は山西省東北部、忻州という五つの峰に囲まれている。五台山の山岳地帯に開かるため、五台山と呼ばれる。後漢時代から建築された53の寺院が林立。数百人の僧侶が暮らす。中国仏教4大名山のひとつ。太原、大同、ト仏教が共存する、文字通り産に登録された。

西台、中台、北台、東台、南台



五台山のシンボル、塔院寺の大白塔

中国仏教の聖地

約500年の巨大な仏舎利塔の中の一つ、仏光寺は唐代の857年の建立で、五台山の一部として2009年に世界文化遺産に登録。中国に現存する木造建築物としては3番目に古い。



五台山で最も歴史の古い顯通寺



菩薩頂に続く108段の階段



菩薩頂の境内にあるマニ車



中国3番目の古い木造建築物、仏光寺

懸空寺

今からおよそ1500年前、鳥の鳴き声も聞こえない場所の北魏時代晩期に創建。大同市の中心から車でおよそ1時間、地上50〜60mの山の壁の間に建つ。

40余りの建物が築かれている。道教のほか、仏教、儒教の施設もあり、三教一体で保存されているのが特徴。観音は、その特性から入数制限があり、見物客は一方通行の細い廊下をめぐると歩く。高所恐怖症の人は注意が必要だ。



岩山中の腹に建つ懸空寺



岩壁にへばりついているようだ